

カメとの遭遇

あたりがゆっくり明るくなると、一人の女性Ⅱハルカが仕事用カバンを手に立っている。

ハルカ その日、川辺で、いじめられているカメを見つけた。

ハルカ、振り返ると、そこは川辺の土手。

誰かが3、4人の男に囲まれポカポカ蹴られている。

ハルカ わ、大変だ。どうしよう。

ハルカ、慌てるが、ふと客席に向き合い、

ハルカ あ、あの人、人間です。後で分かるんだけどカメって呼ばれてるんです。

そんなことより、なんとかしなきゃ…。

ハルカ、木陰に身を隠し、

ハルカ 携帯、携帯、…通報…。

…うんでも、間に合わないか？

あ、あれがあつた。SOS発信機。

ハルカ、カバンから何かの機材を取り出しボタンを押す。
けたたましく音が鳴る。

ハルカ え、音でか！ これじゃ、

間。

男たち、ハルカの方に顔を向ける。

男1 誰だ？

男2 そこにいるな？

男たち、ハルカの方に近づこうとする。

ハルカ やばい、やばい。

ハルカ、意を決し、大きく息を吸ってから、

ハルカ お巡りさーん！ そうです、こっちです。

お巡りさーん、こっちこっちー！

男たち、舌打ちし、慌てて去っていく。

間。

ハルカ、木陰から出てくる。

ハルカ …はあ。怖かった。

なにこの、発信機？ かえって危ないじゃないの。

ハルカ、倒れている誰かに近づき、

ハルカ あなた、あなた？ 大丈夫？

カメ うーん。

ハルカ わたしのこと分かります？

えっと、そうそう、自分の名前言えますか？

カメ …カメ。

ハルカ カメ？ …カメ？

そんな名前の人？ それとも、意識モウロウ？

ていうかつつこんでほしいの？ 駄目だ、マニュアルにない想定外。

カメ 大丈夫、意識は、…いててて。

ハルカ あ、無理して起き上がらない方が、

カメ うん、でも、そんなにひどいケガは、

慣れてるし。

ハルカ

カメ え。（体を起こし、一息）ほんとに。おれ、ただ、鳥にエサをあげてただけな

のに。

ハルカ 鳥に、エサ？

エサあげた？ あなた正気なの？

カメ 正気だよ。構わないでしょ。

ハルカ だってそんな。襲われても文句言えないじゃない。

カメ おれの食料。おれの勝手でしょ。

ハルカ ……そりゃそうだけど。何か取られなかった？

カメ パン。

ハルカ そりゃ取るでしょうけど。他には？ お金とか？

いやそれより、IDとか？

カメ 大丈夫。ちゃんとパンツに隠してあるから。おしりにはさんで。

ハルカ えっ。

カメ お金は、取られかけたけど、その辺にあるんじゃない？

ハルカ、あたりを見回し紙くずを拾う。

ハルカ なんて置いてったの。

ハルカ、紙くずを広げ、

ハルカ ていうか、何これ？ 一億円札？

カメ 何枚かあるでしょ。

ハルカ これって、おもちゃ？ 偽物でしょ？ 使えないんですよ。

カメ 普通の店じゃね。

ハルカ えっ？

カメ、紙くずを拾い集める。

カメ IDも見せないよね。ほんとに紙くずだもんね。

ハルカ そういう問題？ いやいや、ありえない。

カメ (ふと気づいて)……あなた、助けてくれたんだ。

ハルカ えっ、まあ。どうなるかと思っただけど。

カメ ありがとう。助かりました。

ハルカ 気をつけないと。こんなところで鳥にエサなんかあげたら、

カメ こんなとこにしか鳥はいないし。それに、

(さみしく笑って)……どうせ分かってもらえないけど…。

ハルカ 何ですか？

カメ 可愛いから。

ハルカ は。

カメ 鳥が。

ハルカ

鳥が？

カメ

いや、言わなくても。…意味ないって言うんでしょ。

ハルカ

費用対効果とか？ コスパとか？ あるわけないよ。

ハルカ

いや、そうじゃなくて、…分かってないの？

カメ

危険よ。現に。

カメ

…それは、まあ。

ハルカ、カメをじっと見て、

ハルカ

あなた、

カメ

そう。よそ者。

ハルカ

…。

カメ

どうぞよろしく。

ハルカ

もう会わないわよ。ここだって、シテイのはしくれよ。田舎じゃないんだから。

カメ

分からないよ。

ハルカ

(笑って) おれは、カメ、って呼ばれている。

カメ

カメ？ それは得意のボケなの？

ハルカ

そんな人いないでしょ。何時代よ。

カメ

現にいるから仕方ない。あなたは？

ハルカ

わたしは、…ハルカよ。でももう会わないって。

カメ

ハルカ。ハルカ。いい名前だね。

ハルカ

…あなた、どんくさいから、カメって呼ばれてるんでしょ。

カメ

え？ …カメって、どんくさいと思う？

ハルカ

知らないわよ。そういうことになってるんでしょ。

カメ

カメはどんくさい。

ハルカ

カメを見たことは？

カメ

あるわけないでしょ。何時代よ。

ハルカ

おれは、あるよ。

カメ

…え？ 嘘でしょ。

カメ

何度も。

カメ

それで、カメって呼ばれてるんだ。

ハルカを残し、あたり暗くなる。

ハルカ …へんなやつ。

2

ハルカだけに明かりが当たっている。

ハルカ 遠い遠い昔のお話。

カメを助けた浦島は、幸せになるかと思いきや、意味不明な、およそ理不尽な目に遭わされる。

このお話の教訓は、つまらない情けは禁物、ってことだ。
特にカメには。

わたしも思い知らされた。それは、次の日の午後。
いつものように、あまりの暑さで街が息を止めた、昼下がりに。

そこは、ハルカが勤めるとある事務所。
カメが立っている。

ハルカ なんて来んのよここに。

カメ あ、ハルカさんだ。驚いた。

シテイの職員さんだったんだ。すごい奇遇。

昨日はほんとにありがとう。…やっぱり会えたでしょ。

ハルカ あなたよそ者なんですよ。ここシテイの住民専用窓口ですけど。

カメ、意味深な顔をして、書類を出す。

カメ 用事はあるんだ。これ。

ハルカ (書類を見て)…え、あなた一体？

カメ 手続きお願いします。

これ、IDね、

ハルカ お客様…。それ、普段はどこにしまってるんです？

カメ そんなの内緒だよ。

ハルカ …。

ハルカ、いやいやIDを受け取り、見て何かに気づく。

ハルカ (小声で) …あなた、嘘ついたわね。

カメ ん？ 何のこと。

ハルカ 名前。名前よ。

あなたこれ、本名がカメになってるじゃない。

カメ え？ ああ。

ハルカ それも何？ …カメ田カメ。ふざけてんの。

カメって呼ばれてるって言わなかった？ そりゃ呼ぶわよ。

カメそのものじゃない。ダブルでカメじゃない。

カメ へんな名前だよね。

ハルカ へんな名前よ！

ふと、ハルカの上司Aが通りかかる。ハルカぎくつとなる。

上司A、怪訝な顔をしてハルカを見る。

ハルカ

(大きな声で) もちろん、プライバシーを尊重しまして、はい、余計なこととは申しません。はい、あなたのお名前はあなたのお名前。何も問題ありません。

6

上司A、去っていく。

ハルカ、息をつく。

カメ …大丈夫？

ハルカ …大丈夫じゃないわよ。

(小声で) あのね、あたしこれ以上減点されたら、大変なんだから。

カメ 減点？

ハルカ、無視してIDを確認しようとして、

ハルカ あれ。

カメ ん。何？

ハルカ …何でもありません。

カメ え、でも。何か問題？

ハルカ 何も、問題ありません。

カメ …ごまかしてる。

ハルカ 何言うの。

カメ だって。

ハルカ (小声で) ね、お願い、いい加減にしてよ。

もう点数残ってないの。次に減点されたら、あたし終わりなのよ。

カメ 終わり。

ハルカ (大きな声で) このIDに何か問題があれば、それは大変なことで、あ

なたはそれに対処しなければなりません。でもその必要はないんです。このIDに問題は見当たりません。

なのにどうして、何を隠す？

やめてよ。

…。

ハルカ じゃ、言うわよ。言うべきじゃないし、言いたいわけでもないけど。

…つまらないことよ。

…。

ハルカ この、あなたの誕生日、…ちょうど一日違いなの、…年も一緒。

カメ ん？ 誰と？

ハルカ わたしと。

カメ …それ、ちよつと、

ハルカ (遮って) 立ち入りたくなかったんだからね、あなたがどうしてもって、

カメ すごいね！ え、どっち？

ハルカ どっちって？ は？

カメ ハルカさんが先？ それとも？

ハルカ わたしが、先。

カメ じゃ、お姉さんだ！

え、待って待って。それじゃもしかして、しし座？

ハルカ そうよ。何か。

カメ おれ、おとめ座。ちょうど境目だよね。

へええ、おもしろ。

(ハルカを指して) しし。(自分を指して) おとめ。受ける。

ハルカ …だから、何、って話よね。

上司A、書類の束を持ちながら、ハルカに近づいてくる。ハルカ緊張する。

上司A コバヤシさん？こちら、お知り合いの方ですか？

それなら担当を代わってもらわないと。

ハルカ いえ、その。知り合いというわけでは…、

カメ 知り合いじゃないの。

ハルカ (小さな声で) カメ！

カメ 昨日、初めて会ったんですけどね。助けてもらったんです。ほめてやってください。

上司A (スマイル) ほう、そうですか。それはどんな風に？

ハルカ 別にそんな大したことは、

カメ いやいや立派なもんでした。

昨日、ほら、川の、土手のところで、いじめられてたんですよ。

上司A いじめられてた？

カメ はい。そしたらなんか、ハルカさんがでっかい音出してくれて、そしたらみんな逃げてって。

上司A コバヤシさん？ SOS 発信したんですか。

ハルカ そうです、でも、ちゃんと後処理しましたから。

上司A (意味ありげに) …ふうん。

助けてくれたんですよ。ほめてくださいね。ご褒美あげるとか。

上司A (スマイル) そうですね。考えておきましょう。

上司A、書類の束を持ったまま、部屋を出ていく。

カメ なんか嘘くさいね、あの人。

ハルカ 余計なこと言わないで。

カメ ま、いいけど。

ハルカ じゃ、書類の説明をします。スマホはお持ちですね？ 必要な書式はそちらの方に、

カメ あ、ごめん。ないです。スマホ、持ってない。

ハルカ 他の電磁デバイスは？

カメ うん？

ハルカ ないですか。

カメ そうですね。

ハルカ じゃ、仕方ない。少々お待ちください。

ハルカ、いろいろと書類を持ってくる。

ハルカ　こちらに記入してもらわないといけません。

カメ　すごい量。

ハルカ　デバイスをお持ちであれば、そちらに送れましたけど。

カメ　うん。前に、いろいろ、いろいろ送られて来た上で失くしちゃったから、

かえって困ったし。

ハルカ　そうですか。

こちらの書類、お持ち帰りになって書いてもいいですし、

カメ　いやダメ。それはダメ。ここで書かせて。

一人でちゃんとできる、って思える？　思えない。助けてよ。

ハルカ

…。

そうですね、今回は、ちょっと複雑だし。…仕方ないか。

カメ　（ペンを取り、書類をめくりながら）これ、何枚くらいあるの。

ハルカ　かっつきり四十三枚です。

カメ、息を飲む。

照明の変化：時間が経過している。

カメ、ペンを置く。

カメ　はあああ、終わったああ…。

ハルカも疲れ切っている。

ハルカ　終わりましたね…。お疲れ様でした。

カメ　ねえ！　ハルカさん。最初、四十三枚って言ったよね。言ったよね？

ハルカ　（少し小声で）あなたレアケースが多すぎんよ。追加書類がどんどん必要になるんだもん。

カメ　で、最終的に？

ハルカ　かっつきり、二千百七十八枚。

カメ　多すぎだよ。死ぬかと思った。

ハルカ　わたしもよ。

カメ　それにしても、よくこんな、たくさんの書類を理解して、対応できるんだねえ。

ハルカ 仕事ですから。

カメ すぎすぎる。…ねえこれ、もし不備があったらどうなる？

ハルカ それは、大丈夫。わたし全部チェックしたから。

申請が通るかどうかは別にして、不備はないわ。

カメ すご！ ハルカさんすぎすぎる。なんて優秀な人材。

ハルカ だって、できないと…。

（苦笑いして）クビになって、AIが取って代わるだけ。

カメ え？ そんなのダメだよ。

ハルカ でも、仕方ない。

カメ やだよ、困るよ。あいつらおれみたいなのに、こんなに親切に教えてくれないもん。あいつら落ちこぼれには冷たいんだよ。

ハルカ ……そうよ。

ハルカ、重たい疲労を感じているが、息をついて気持ちを切り替える。

ハルカ じゃ、最後の確認。この申請の結果通知、どこに送ったらいいですか？

カメ、凍り付いたように緊張する。

ハルカ 現住所になっているところがいいですか？

カメ ……うん。

ハルカ 本籍地？

カメ ダメ、そこ誰もいない。

ハルカ 住民票？

カメ そもそも、違う住民が受け取っちゃう。

ハルカ それじゃ、

カメ おれ、ここに取りに来るから。

ハルカ それはダメなんです。どこかの住所を指定してもらわないと。

カメ、ぐったりする。

カメ スマホなくした時は、おれ、本人である証明ができなくなっちゃった。お

れって言うのは、このおれじゃなくて、失くしたスマホのことだって気づいた。住所も、ちょっと失くしたただけなんだけど。おれ、ちゃんとここに
いるんだけど。

ハルカ 誰か、頼れる人はいないの？
カメ ……
ハルカ ほんとに？ 誰かいるんでしょ？
カメ ううん。

…いたとしても、みんな、紙切れに血眼になってるから…。

問。

カメ (ぼそりと) ごめん。申請取り下げます。
ハルカ あんなに頑張ってくれたのに。ごめん。
…帰ります。
ハルカ え、え？ 待ちなさいよ。
カメ あの紙、全部無駄にするの。嘘でしょ？ 嘘でしょ！
…だって。
ハルカ あたしの成績にも関わんのよ。こんだけ長時間対応して、なんの成果もなし？ そういう訳には。
カメ ごめん。ほんとにごめん。

カメ、帰ろうとする。

ハルカ く…。
じゃ、仕方ない。…乗り掛かった舟。最後の手段だ。
カメ (紙に何か書いて渡し) これ書きなさい。あたしがあんたに届けてやる。
ハルカ は、…これ？
カメ あたしの住所だよ。
ハルカ そんなことしたら、
カメ あたし中見ないから。一時預かりだから。あたしに損得発生しないし。問題ないはずだよ。
カメ そんな、でも。
ハルカ だってこれできなかつたらあんた困るんでしょ。
カメ それはそうだけど。
ハルカ …なんて親切な。…さすがしし座。
ハルカ そこか！

同じ日の夕方。川辺。土手の上。

ハルカぐったりと歩いてきて、ベンチに腰かける。絶望している。

ハルカ　　そういや、ご褒美あげてください、なんて言ってたんだっけ。

…とんだご褒美だよ。

あのカメ。情けは禁物だったのに。

カメが現れる。

カメ　　あ、ハルカさんだ。

ハルカ　　カメ！

カメ　　今日は本当にありがとう。

ハルカ　　…あれ、こんなところ来て、大丈夫？ 危ないんじゃないか？

ハルカ　　あんたみたいに能天気な鳥にエサなんかやらなきゃ、ちっとも危なくないんだよ。

カメ　　怒ってる？

あ、ご褒美もらえなかったんだ。

ハルカ　　ご褒美だと！

ハルカ立ち上がる。カメおののく。

ハルカ　　（座って、怒りを抑えつつ）いや、あたっちゃダメ。ていうか、かまっちゃダメ。カメなんか。

カメ　　ねえ、ねえ。何かあったの？

ハルカ　　…いいえ。ほっといてくださる？ あなたには関係ないですから。

カメ　　だって！

え？ もしかして、また減点された。それで「終わり」になった。

ハルカ　　何言ってるの、まだだよ！ まだ、…審査会に送られただけだから、

カメ　　審査会。

ハルカ　　…そこで減点かどうか決まるの。クビかどうか決まるのよ。

カメ　　え…、

ハルカ　　といっても、もう決まったようなもんか。

って、なんであなたに話さなきゃいけないんだ。もうほっといてよ。

問。

カメ ……それもしかして、おれのせい？

ハルカ ……。

カメ ねえ、言つてよ。なんか、おれを助けたせい？

書類の送り先を買って出てくれたから？ そのせい？

ハルカ そうだよ！

…と、言いたいところだけど、そうじゃない。

あなたは関係ない。ぜんぶ、…あたしのミスよ。

カメ 何があったの。

ハルカ ……書類を一つ、失くしたのよ。

カメ 一つ。それだけ？

ハルカ それだけだつて！ 大変なことなのよ。あつてはならないの。あたしとし

たことが。く。ありえない。ありえない。どうしてこんなことに。

カメ いつ、なくしたの？

あなたに話してもしょうがないでしょ。

カメ そうだけど。

ハルカ ……今日の、昼頃だよ。…最後に見たのはお昼に入る前だったから。

で、あなたが帰つて、いざ仕上げようとしたら、もうない。どこをどう探

しても、見つからない。なんでだろう。ああ、どうしてだ。

カメ ふうん。それつてさ。

ハルカ ……。

カメ おれの対応してなかったら、たぶん、失くしてないよね。

ハルカ そうだ！ ほんとにその通りだ！

あなたにあんなにかかりつきりになって、だから、やっぱり、お前のせい

だ！

問。

ハルカ、我に返り、息を整え、無理に微笑んで、

ハルカ

…なんちゃつて。そんなことはないんだ。ゴメンナサイ。これはやっぱりあたしの責任。失くしたのはあたし。ちゃんとちゃんと、しまっていたらこんなことにはならなかったんだ。あたしの責任だ。ぐぐ。

カメ …さすがだね。

さすが、しし座。

ハルカ …。

うん。ごめんね。うん。そこ、無視してくれていいよ。

ハルカ、ため息。

ハルカ 終わりだ。終わりなんだ。

これまでずっと、精一杯、一つ一つ、やってきたのに。全部台無し。
これで、終わり…。

間。

カメ ねえ、それってさ、ただクビになるだけでしょ。大丈夫だよ。平気平気。

ハルカ …あんたにあたしの何が分かる。

だって、

ハルカ あたしに存在価値なんてないのよ。元々なかったのよ。ここまで努力してきたことは、みんな無駄だったの。はじめっから、みんなAIにまかせておけばよかったんだ。あたしなんかなくてよかったんだ。

カメ …そうはならないよ。

大体さ…、

あのさあ、おれよく分かんないけど。AIってめっちゃ強いわけでしょ。で、それと競争しようって？ そりゃたいへんだし疲れるよ。疲れるだけだよ。なんでこんなことになっちゃったんだ。

…。

カメ AIと争って、人間の方までAIみたいに考えるようになってるじゃん。

効率？ AIにかなおうって思ってる時点で、もう負けてんだよ。

…何言いだすんだよ。カメのくせに。

カメ、笑って、

カメ そうそう。そういうのがいい。

たぶん、AIはそんな理不尽なこと言わない。

ハルカ …カ・メ！

だからって何の解決にもならないんだよ！

カメ うーん。それはごもつとも。

間。

カメ でも、たぶん。なるようになるから。
ハルカ あんたはね、それでいいんでしょうけど、カメだから。

カメ、にやにやしている。

カメ カメだってさ、カメなりに心配があつて苦勞もしているかもよ。ねえ。
ハルカ …ほんとにそう思う？
カメ え。

…そう言われると。
…あいつら、苦勞はしてるかもだけど、心配しながら生きてるようには見え
えないな。

そう思わない？

ハルカ だから、ほんとのカメなんか見たことないんだって。

カメ そうだった。それは残念。

ハルカ …あんたはさ、何者なんだよ。

へらへらして。それで？

実は大金持つてるから何も心配がないんですよ。

カメ え？

ハルカ 持つてんじゃない。何億円？ いっぱい持つてたじゃない。

カメ あれはだから、使えないから…。

カメは悲しそうにする。

カメ ハルカさんとは、お金の話はしたくないなあ…。

カメ、石ころを拾って、力いっぱい川に投げる。

ハルカ …なに、カメ。怒ったの？
カメ 怒ったりしないけど…。

あの紙切れはさ…、お金って言うよりも…。
形見だから、大事に取つときたいんだよね。

ハルカ お金が形見？

(独り言) …やっぱりこいつ、真正のバカだ。もったいない。
豚に真珠。猫に小判。カメに一億円。…カメは万年だろ。

カメ、川に石を投げ、水切りを始める。

ハルカ え、ちょっとあんた、何してんの？

カメ 何って。チャーる。

ハルカ え？ え？ 何だって？

今、石が川から跳ねたでしょ、どうなってんの。

カメ …そんなことも知らないの。

ハルカ カメがわたしより何かに詳しい。ありえない。

カメ ほんとに知らないな？

いい、よく見えて。

カメ、水切りをする。

ハルカ なんで？ なんで石が跳ねるの。え、どうなってんの。

カメ 簡単だよ。おれが投げるのを見て、川の中でカメがはじき返すの。カメたちが。

ハルカ マジで？

魔法みたい。

ハルカ、思わず石を拾って、投げる。うまくいかない。

ハルカ 跳ねないじゃん。

カメ そんなやり方じゃダメだよ。

いい、まずは、川の中のカメたちに、心の中で呼びかけるの。
これから投げるよ、はじいてね、って。

カメ、投げる。何度も石が跳ねる。

ハルカ 奇跡だ。カメがはじいている。

カメ ハルカさんもやってみて。まず、心で呼びかけて、それから、石を横に回転させるようにして投げる。

ハルカ うん。

ハルカ、石を横向きに投げる。うまく跳ねる。

ハルカ 跳ねた。すげー。

カメ、反射神経よすぎる。すげー。すごすぎる。

カメ、楽しくて笑う。

カメ もっと、もっとやってみて。

気が楽になるよ。

照明の変化：時間が経過している。

ハルカ、楽しそうに石を投げる。

ハルカ ていうかさ、これただ、石が回転してるからはじくんじゃよ。

カメなんかいないんですよ。

カメ いるよ。見えないけど。カメがいつばいいいるんだよ。

ハルカ 騙されないわよ。

ハルカ、ベンチに腰掛ける。

ハルカ あー、つかれた。もう、暗くなっちゃったし。

でも、楽しかった。

カメ うん。よかった。

カメ、ベンチに近づき、しゃがんで

カメ カメと言えばさ。ハルカさんって浦島太郎の話、知ってる？

ハルカ そりゃ当然。ていうか、なんだ？

カメが浦島について語る？

カメにその資格ないだろ。

変なこと言う。

ハルカ …。

カメ 浦島がさあ、竜宮城にいった、すごいおもてなしを受けて、それで、すべてを失う。乙姫の陰謀で。カメの手引きで。

カメ なんか極端。

あれって、どういうことなんだと思う？

ハルカ は？

：油断するなってことでしょ。あとつまらん情けは無用ってこと。

特にカメには。

カメ うーん。そういう解釈？

でもその割には、ハルカさん知らない人にも優しいよね。

ハルカ 別に。

カメ そうだよ。

カメ、しばらく、話をするか迷っているが、

カメ あのさ、こんな話…、聞いてくれる？

ハルカ (少し迷惑そう) どんな話。

カメ まあ、よくある話なんだけど。

あるところに、むかーしから、先祖代々、素朴に暮らしてきた村があったんだ。その人たちはみんな、昔から、畑を耕したりして、ずっとそれなりにやってきてた。

ハルカ なんだ今度は。：それ、昔話？

カメ そうでもない。今の話。そうだね、これは、カメがカメになった話。

で、ある時その村に、道が通ることになった。

ハルカ 道？ 道路のこと？

そうそう。シテイにつながる大きな道。

そしたらね、今までほとんどなかったようなものが、急に現れたんだ。

何よ。オバケとか？

カメ オバケ。たしかに。オバケみたいなものだ。

その村の土地に、値段がついたんだ。

ハルカ は？

突然、道が通る土地に法外な、見たこともないような値段がついて、急にみんな大金持ちになった。

ハルカ よかったじゃん。

カメ それがさあ。そうとも言えなくて。

ハルカ なんだよ。

カメ 見たこともないような、びっくりするようなお金を手にした途端、みんな、それを使いたくなかった。

ハルカ そりゃ、まあねえ。

カメ あれも、これも、手に入るようになったら、あれもこれも、全部ほしくなっちゃって。

ハルカ 欲が出た。でもちよつと位かまわないでしょ。

カメ それがだんだんエスカレートして。隣の人があれ買ったら、うちもほしい。こっちの人はあれ持つてる。うちだってほしい。

ハルカ ほどほどのとこで、考えないと。

カメ うん。その通りなんだけど。でも、みんな浮かれちゃってたから。全然止まらなくて。

ハルカ …おバカ？

カメ だんだんみんな、すごい遊びを始めて。

ハルカ すごい遊び。

カメ 酒とか、女とか。

ハルカ あとお金をもつと増やすらしい紙切れとか。それにまつわるゲームとか。なんか、あさましい感じ。

カメ で、しばらく豪遊の時代が続いて、問題は世代が代わる時。相続税とか？

ハルカ 払わなくちゃいけないんだけど、

カメ そりゃ、当然。

カメ でももう、払えない。

ハルカ といつても、なんとかしなくちゃいけない。それで、お金にかえられるようなものは、もう先祖伝来の、暮らしの基盤だった、土地しかない。

ハルカ それ、売るしかないよねえ。

カメ うん。それで…。

ハルカ みんな、土地を売っぱらっちゃいました。

ハルカ ようするに、たった一本道が通っただけで、その村は滅びましたとき。

ハルカ 待って待って、みんな？ みんながそんなにバカだったの？ どんな未開の田舎なの。

カメ みんな、素朴な人たちだったから。

ハルカ 素朴とかじゃないでしょ。え、ものすごい欲まみれじゃないか。

カメ うん。でもこれ、よくある話なんだけど。

ハルカ 聞いたことないわよ。

カメ シティのまわりなら、どこでも起こってるんだって。

ハルカ 愚かすぎる。

カメ …うん。

(ぼそりと) こうして、カメは住所不定のカメになりましたとき。

ハルカ あんたの話か。

カメ…。

カメ そんなでね、おれ、思うのは、浦島太郎はさ、

ハルカ そこまで戻る？

カメ おれ、分かるような気がするんだ。

浦島は、身の丈に合わない、ものすごい豪遊をしちゃったんだ。

普通の人間が、受けてはいけないようなものすごいおもてなし。それは、受けるだけでも、一生涯を、…代償にしないといけないようなものだったんだ。

そんな豪遊しちゃいけないし、望んじゃいけないものなんだ。

ハルカ …何よそれ。

あたしは納得いかない。少なくとも、竜宮城に連れてく前に、カメはきちんと説明するべきだった。

カメに、説明？ 求める？

カメには無理なんじゃないかなあ。

ハルカ あたしならそうする。ちゃんと説明してあげる。

だって、なんかよかれと思って、それで相手が迷惑こうむってたら意味ないじゃない。

そりゃそうだけどねえ。カメにはちよつと、

カメ 今回だってさ、あの書類だって。

ハルカ あの書類？

ハルカ 失くした書類。

いろいろ説明してやらなきゃって、付箋、貼って、間違えないように。

ここにも、こっちにも。付箋だらけにしてやってたのに。

カメ ん？

たくさんの付箋。 …カラフルな付箋？

ハルカ そうよ、もうびろびろと、四方八方、ライオンかっくらいい。貼り付けて

やったのに。

がおー！

問。

カメ ねえハルカさん。その書類、最後に見たのがいつだったって？

ハルカ だから、お昼前だって。

カメ それが最後の目撃？

ハルカ ……そうだよ。

カメ そんなで、ハルカさんが最後の目撃者。

ハルカ だからそうだって。

カメ うーん、それちよつと違うかも。

ハルカ は？

カメ その書類。最後に見たのは、多分おれ。

ハルカ立ち上がる。

ハルカ 何言ってるの。え？

カメ 最後に持ってたのは、ハルカさんの上司。話しかけてきた人。

ハルカ え？ え？ どうゆうこと？

カメ おれ、見たの。あの人なんか、いっぱい紙を持ってたでしょ。その中に、

あつたの、ライオンみたいな付箋の書類。

ハルカ ええっ！

あいつか！ あたしのせいにして？

自分で、勝手に取って、勝手に持ってたのか！

あの書類たち、どこ行ったかな。

ハルカ たぶん、処理室だ。

ハルカ、時計を見る。

ハルカ 今ならまだ間に合う。溶解処理されちゃう前に。

恩に着るよ、カメ！ 首の皮一枚でつながった。

ハルカ、駆け出していく。

カメ、一人明かりの中に残される。

カメ やはり、カメは助けるに限る。

数日後。川辺。土手の上。

カメはベンチに腰掛け、そっと紙袋を取り出す。

にやにやしながら紙袋の中を見て、それからのんびりと何かを待つ様子。

やがて、とぼとぼとハルカがやってくる。カメは立って、うれしそうに、

カメ 久しぶり。今日は、会える気がしてたんだ。

ハルカ あたしが、会おうと思えばね。あんたいつもここにいんじゃない。

カメ (にこにこ) そうだよね。

ここは、いい風吹いてるしね。

ハルカ 風？

で、何持ってるの？ 鳥のエサじゃないでしょうね。

違うよ。もうあげちゃったから、もうないよ。

もつといいもの。

ハルカ (疑わしそうに) もつといいもの。

カメ それで？ あれ、どうなった？

ハルカ うん。おかげで書類が見つかって、あいつが減点されたって言ったよね。

カメ うん。いい気味だ。

ハルカ それがさ…。

カメ いい気味じゃない？

ハルカ 別にあたしは、そんなのはさ。

あたしはギリギリ残れたわけだけど。

…あいつだっていなくなるほどの減点じゃないからさ。

カメ 何も変わらない。

ハルカ それどころか、悪くなったよね。

恨みを買ったというか、それ逆恨みだよ、って思うけど。

それでなんか、職場全体がピリピリして、今まで以上にみんなが粗探し。

細かいミスも許されない。

カメ げげ…。

人間だから、ミスはつきものなんじゃなかったっけ。

カメ もう、腹立つ！って？

しし座としては…ライオンとしては？

吠えちゃう？ 噛んじゃう？

ハルカ いや、もう…、なんか、疲れたかな。
正直、もうどうでもいいや。

ハルカ、ベンチに腰掛ける。ため息。
間。

カメ これは…、苦手な展開…。

ハルカ、少し無理に笑って、

ハルカ って、カメにこんなこと話してもね。
ほら、これ。

ハルカ、カバンから封筒を出してカメに渡す。

カメ ん？ 何？

ハルカ 何って。あんた宛の書類よ。ほら、あたしが受け取ることになったた。

カメ え！ あれ！ ついに。

ハルカ そうそう。届けに来たの。

カメ ありがとう！ ありがとう！ ほんとに。

カメ、大慌てで封筒を開けようとして、びりびり破く、

ハルカ コラ！ ちょっと！

そんなやったら中まで切れんでしょ。せっかく持ってきてやったのが。

カメ う、うん。そうだね。

カメ、そーっと、中身を取り出す。

そして書類を読む。ぱあっと顔が明るくなり、安堵の息をつく。

ハルカ なんだって？

カメ 申請、通りましたって！

ハルカ よかったね。

カメ よかった。うん。ほんと、よかったよ。

紙はちよっと破けちゃったけど。

ハルカ えっ！
カメ これくらい問題ないでしょ。
ハルカ …うん。大丈夫か。
頼むよ。

カメ、紙を大事に大事に、小さく小さくたたんで、どこにしまったらいいか悩んだ後、適当にポケットに入れる。

ハルカ 大丈夫か？ 失くすなよ。
カメ うん。

ハルカ でも、…まあ、これ、通ってしまえば、おれとしては、もう、いいんだ。
そうなの？

カメ うん。本当に助かりました。
これで報告できる。

ハルカ 報告。

カメ …ねえ、あんまり立ち入ったこと、聞く気はないんだけど。
いいよ、なんでも。恩人のハルカさんだもん。

カメ …これ、あんたに直接関わりのあることなの？
直接？

ハルカ ないかな。頼まれ事だからさ。
…。

カメ お世話になったおばあちゃんが、すごく気にしてたことなんだ。
これですつかり安心してくれると思う。

ハルカ …そう。
草葉の陰でね。

カメ っ、故人か？
ハルカ あんた、死んだ人のためにわざわざ？

カメ うん。
…それ、意味あったの？

ハルカ そりゃあ。
きつと喜んでくれる。

ハルカ 確かめようがないじゃない。
カメ …？ 確かめる必要がある？

間。

ハルカ (独り言) …ないわ。たしかに。…所詮は自己満足、だとしても…。

はあ。なんか拍子抜けしたけど。これで一つ肩の荷が下りた。

ありがとうございます。たいへんお世話になりました。

…。

ハルカ、何かひっかかることがある様子。

カメ どうしたの？

ハルカ うん。…なんかさ。

カメ ？

ハルカ (苦笑いして) いや、つまらないことだけど。

カメ 何？

ハルカ 何かもう一つ、今日やらなきゃいけない事があったはずなんだけど。

それがどうしても思い出せないの。何か見落としてるっていうか。

…はあ、またきつと大目玉だわ。

ほんと、もう、あたしダメかもね。

今日の、もう一つの用事？

そう。

(笑って) それは、そんなに心配いらないよ。

はあ？

カメ なんであんたが断言する。

ハルカ だってそれ、全く、くよくよするようなことじゃないし。

あと、つまらないことでもないよ。

カメ？ 何言ってるの？

だって。

おれ多分、その用事、わかるよ。

ハルカ なんでよ。なんであんたなんかに？

カメ、にやにやししながら、紙袋を差し出す。

カメ 今日ほさ、しし座の最後の日だよ。

つまり、ハルカさんの誕生日でしょ。

はい、ハッピーバースデー。

ハルカ えっ。

カメ 用事って。多分、このことでしょ。
ハルカ …。
カメ (結局自分で袋を開けはじめ) 自分の誕生日、忘れるかなあ。仕事しすぎなんだよほんと。

カメ、袋の中身を取り出して

カメ じゃーん。これ、分かる？
ハルカ 分からない。全然。何？
カメ これはね、シャボン玉の液と、吹くための、穴のあいた棒。手作りの。配給のおじさんが石鹸くずを分けてくれたから、やってみんだ。
ハルカ はい、これ。
カメ どうやるの？
カメ (笑って) 知らないの？
ハルカ 本でしか見たことなくて。
カメ じゃ、この、棒をくわえて、この水を吸い込んで…、
あつ、

ハルカ、飲んで激しくむせる。

カメ 飲んじゃダメなんだけど、
ハルカ 先に言いなさいよ！
カメ 大丈夫？
ハルカ (むせつつ) ちょっとしか、飲んでないから、
カメ うわー。おれ、飲んだことないけど。大丈夫かな。
ハルカ …。
カメ ま、死ぬわけじゃないか。
ハルカ いい、その棒で、ほんのちよつとだけ液を、吸って、それで吹く。
ふーつと。

ハルカ、シャボン玉を吹き出す。

ハルカ こう？
カメ そう！ いいねいいね！

ハルカ、試しながら、何度もシャボン玉を吹く。

カメ　ほんとは、もっと濃い方がいいんだと思うけど、そこはゆるして。

ハルカ　…これが、シャボン玉。これが。

ハルカ、しばらく夢中になってシャボン玉を飛ばす、

ハルカ　…シャボン玉って、わたしが思ってたのより、…ずっとキラキラして、

まるで、生きてる宝石みたい。

カメ　ええ？　ハルカさんのくせに。

ポエムみたいなこと言って。

ハルカ　だって、ほら。

ハルカ、シャボン玉を吹く。

ハルカ　いい風、吹いてる。

カメ　そうだよ。

ハルカ、もう一吹きして、それからぼんやり、風を感じる。

それからカメに向き直る。

ハルカ　…カメ、あんたって。

なんでも知ってるのね。

カメ　は？　何をバカな。

おれがモノ知らないって、一番わかってるのハルカさんでしょ。

ハルカ　でも、

あんたは、大事なことは、何でも知ってるんだ。

そうなのよ。

カメ　またあ。そんなこと言うの、ハルカさんだけだよ。

ハルカ、少しためらうが、思い切って、

ハルカ　ねえ、カメ。

あんた、明日うちにおいでよ。

カメ　ええ！

どうしてまたそんな。

ハルカ

あんた、明日誕生日でしょ。

あたしだって、知ってるんだから。

ご馳走してあげる。ろくな材料が手に入らなくても、精一杯、

カメ

…。

ハルカ

いいんでしょ、どうせあんた、ヒマなんでしょ。

カメ

…。

ハルカ

何よ、何か、問題あるの？

カメ、深い息をついてハルカに向き直り、

カメ

おれ、結果が出たんならもういい加減、この街を出て行かないと。

ハルカ

え。何を急に。

カメ

もうそろそろ、限界だからさ、こんな都会は。

ハルカ

この街が、都会？ そんな、キャピタルに比べたら全然、

カメ

田舎だって？

キミたちはみんなそんな風に言うんだから。それで、キャピタルに比べて
いかに遅れてるかって言うんだ。ここでももう十分、窒息しそうになって
るのに。

ハルカ

でも、そんなこと言っても。

カメ、さみしく笑って行こうとする。

ハルカ

カメ！

…あんたはどこに行けるのよ。どこで何をしようっていうの。

カメ

そりゃあさ。

いい風の吹いてるところ。探すんだ。

いくらでもあるよ。そこで、なんかやって暮らす。

ハルカ

そんな。なんかって？

カメ

へへ。プランはばっちり。いろいろあるんだ。

ハルカ

あんたのプラン？ …信憑性ゼロでしょ。

問。

カメ、微笑んで、

カメ

じゃ、一緒に行ってくれる？
確かに一人じゃ不安だからさ。助けてくれない？

ハルカ、息をのむ。

ハルカ

…ムリよ。

カメ

そう？

ハルカ

だって。

そんな。

誰が、…誰がカメについていくっていうの。

ハルカ、言葉につまる。精一杯、何かを言おうとして、

ハルカ

…わたし、おばあちゃんにされちゃうの。

カメ

(笑って) それで、幸せに暮らすんだよ。

ハルカ、思わず感極まり、顔を伏せる。

カメ

泣いてんの？

ハルカ

誰が。泣くわけないでしょ。

カメ

…シャボンの液が、目にしみたのよ。

カメ

へええ。

それじゃ、目が洗われて、もっと世界がきれいに見えるかもね。

ハルカ

…見えるわよ。バカね。

世界が美しく見える。

あんたのせいよ、カメ！

あたりは急速に暗くなり、ハルカが一人、光の中に残される。

ハルカ

誰が、…誰がカメについていくものか。

ひどい最後を迎えると知ってて。

たとえ、理解ができないほど、幸せになれる気がしても。

ハルカ、走り去る。

ゆっくりと明かりが広がる。

そこは再び、川辺の土手。ベンチがある。

ハルカがゆっくり入って来る。

ハルカ

あれから、どれくらい経ったんだろう。

今日、カメから手紙が届いた。

ハルカ、懸命に気を静めながら、ベンチに腰かける。

手紙を取り出し、一呼吸いれて、封を切る。中身を取り出し、読み始める。

ハルカ

ハルカさんへ。お久しぶり。

おれ、気持ちのいいところに落ち着きました。

いい風が吹くところです。

もしも、いつか、ここに来たいと思ったら、いつでも来てください。

カメ。

ハルカ、慌てて封筒を見返し、それから手紙、封筒を透かして見る。
苦笑して、

ハルカ

…やっぱり。カメだからさ。

住所書いてないじゃん。どうやって行けばいいのよ。

ハルカ息をつき、それからもう一度、手紙を読み返す。

ゆっくり空を見上げて、

ハルカ

いい風が吹くところ。

…わたし、見つけられるかもしれない。

いつか、あなたに会いに行くわ。

ハルカ、風を感じて。

終わり